

光星 タイブレーク制す

【評】八学光星がタイブレークに突入した熱戦をものにした。無死一、二塁から始まる延長十回、2死で新谷翔が右前に適時打を放ち、試合を決めた。投手陣は尾形、秋元、エース北口の継投で相手打線を計3安打に抑えた。



【明の星―八学光星】タイブレークの10回裏、八学光星2死一、二塁、右前に適時打を放ってサヨナラ勝ちを決め、ガッツポーズする新谷翔―長根

辛勝 光星 「空回り」

八学光星は八回まで、7安打を放ちながらも得点機をつくれず、初回に献上した1点を追いかける展開が長く続いた。九回2死から敵失で同点に追いつき、タイブレークの延長戦を制す土壇場の

勝負強さを発揮したものの、仲井監督は「（選手たちが）自分自身に負けている」「空回りも度が過ぎる。経験のなさが出た試合だった」と手厳しかった。

この日5打数4安打で、延長十回に右前へ決勝打を放った新谷翔も「初回に1点を失った焦りから積極性に欠けた。

球種も絞りきれず、自分たちはもっとできたと思う」と反省しきり。「甲子園を狙いたい」と、4番を打つ双子の兄・契夏（せつな）とともに石川県から門をたたいた3番打者は「チャンスで必ず打ち、打線を引っ張っていく」と気を入れ直した。

（棟方好華）